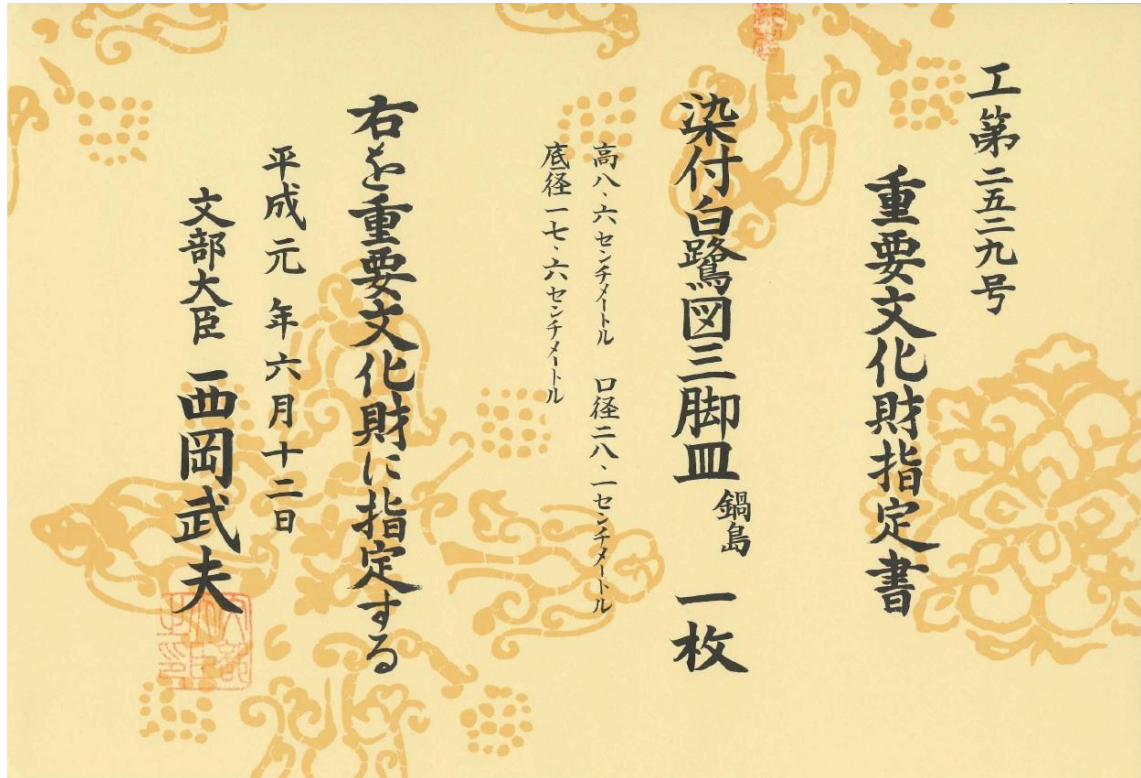


そめつけさぎもんみつあしおおざら
染付鷺文三足大皿

肥前 鍋島藩窯

1690～1710年代



※指定名称と当館で使用している作品名称は異なりますが、同一の作品を指しています

作品介绍

染付で鷺文を描く鍋島焼の三足皿。卓抜した意匠と完璧な技巧を示す「鍋島」の代表作の一つである。「鍋島」は、佐賀藩鍋島家が、主に将軍家への献上を目的に採算を度外視して作らせた特別な製品である。規格を整え、卓越した技術を用いて、染付、色絵、青磁などに独特かつ優美な作風を創出し、17世紀末～18世紀初めに最盛期をむかえた。

この作品は、見込に細く濃みのない線描きとむらのない濃みで蓮池に佇む三羽の白鷺を表現している。鷺と蓮を組合わせた「蓮鷺」は、科挙に連続して合格し立身出世する意味を込めた吉祥文様である。鷺は白く塗り残すことで、染付による青1色を用いながら素材そのものの白をもう1つの色として演出している。裏面の高台際には型抜きによる脚を三方向に付け、蛇の目の無釉部分には焼成時に使用した「鍋島」独特の窯道具の熔着痕が列点状に二重に残る。裏面三方には染付による小質玉木とされる折枝文を描く。

昭和54年(1979年)3月31日付で佐賀県重要文化財に指定される。

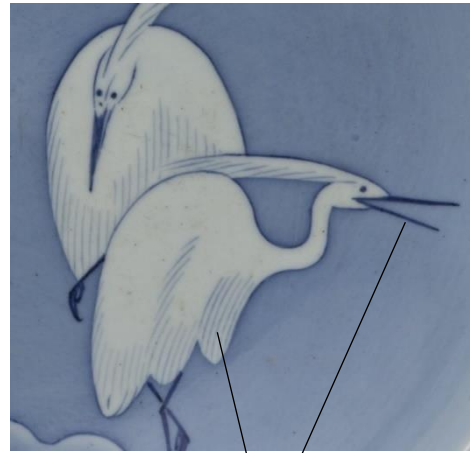
平成元年(1989年)6月12日付で重要文化財に指定される。

解説シート

薄くむらの無い濃（だ）み。



濃淡の表現。



線描きに太さと濃淡の変化をつける。



三足の接地部分に施釉するため窯道具で支えて浮かせて焼いた痕跡。二重列点状になっている。

裏面

如意頭形の足。全面に釉を掛けている。

裏文様は小賀玉木の折枝文を三方に配置している。

